

戸田市立地適正化計画策定に係る意向調査 結果概要

1. 意向調査実施要領、回答状況

○調査対象

- ・居住者：市内に在住する満 16 歳以上の世帯主 2,000 人（無作為抽出）
- ・事業者：市内で操業する 1,000 事業者（無作為抽出）

○調査期間

- ・平成 29 年 5 月 15 日（月）～平成 29 年 5 月 31 日（水）

○転居等による無効調査票数

- ・居住者：22 人
- ・事業者：49 者

※回答率の母数から削除

○回答数

- ・居住者：652 人（回答率：33.0%）
- ・事業者：437 者（回答率：46.0%）

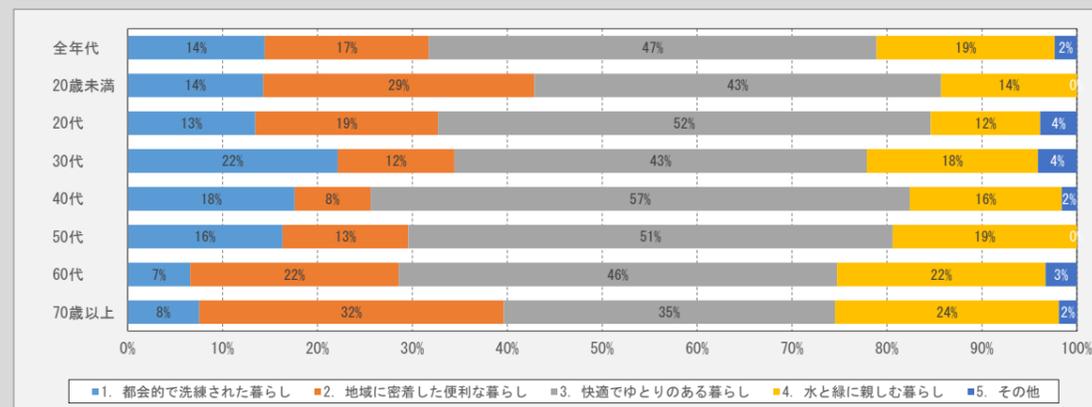
2. 主な調査結果と計画への反映状況

<意向調査結果>

○今後、戸田市でどのような暮らしをしたいかについて

（居住者意向調査、年代別）

・30代、40代は「都会的で洗練された暮らし」が多く、それに対し、60代、70代は「地域に密着した便利な暮らし」「水と緑に親しむ暮らし」「水と緑に親しむ暮らし」が多く、世代ごとに希望する暮らしのイメージが異なっている。



<計画への反映>

○まちづくりの目標、方針

- ・地域の特徴を活かし、多様な暮らしが実現できるまちづくりを、まちづくりの目標、方針として設定している。

■まちづくりの目標

「都市環境と自然環境が調和した生活の質を高めるまちづくり」

■まちづくりの方針

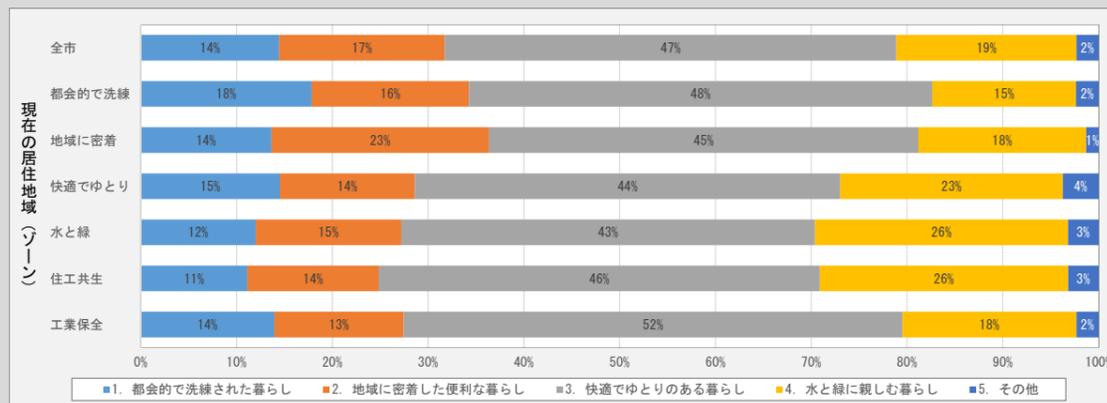
- 拠点ごとに特色ある活力とにぎわいの創出
～人々が集い、市全体の魅力向上につながるまちづくり～
- それぞれの地域の特徴をいかした都市環境の向上
～誰もが多様な暮らし・活動を実現できる環境づくり～
- 多様な交通手段による移動性の向上
～生活の質の向上を支える交通環境づくり～

○今後、戸田市でどのような暮らしをしたいかについて

（居住者意向調査、地域別）

・それぞれの居住地域（設定したゾーン）とも、該当するゾーンでの暮らしを希望する人の割合が他地域より比較的多くなっている。

なお、各地域とも「快適でゆとりのある暮らし」への回答が多いが、「快適」や「ゆとり」という言葉がイメージしやすく、受け入れやすいことが要因と考えられる。



○目指すべき都市の骨格構造（ゾーン設定）

- ・地域ごとに誘導すべき都市活動を定め、それに対応したゾーニングを設定している。

ゾーニング

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 居住ゾーン | 住工共生ゾーン |
| 都会的で洗練された暮らしを誘導するゾーン | 新しい形の住工共生を促すゾーン |
| 地域に密着した便利な暮らしを誘導するゾーン | 工業ゾーン |
| 快適でゆとりのある暮らしを誘導するゾーン | 立地をいかした工業を保全するゾーン |
| 水と緑に親しむ暮らしを誘導するゾーン | |

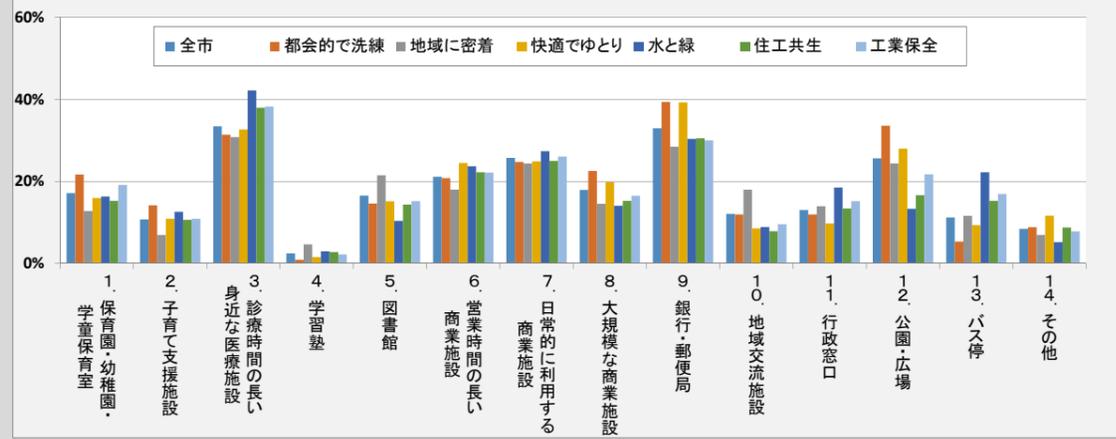


<意向調査結果>

<計画への反映>

○住まいの周辺に必要な施設
(居住者意向調査、地域別)

・「銀行・郵便局」、「公園・広場」、「診療時間の長い身近な医療施設」、「日常的に利用する商業施設」、「大規模商業施設」に対するニーズが高い。



○誘導施設

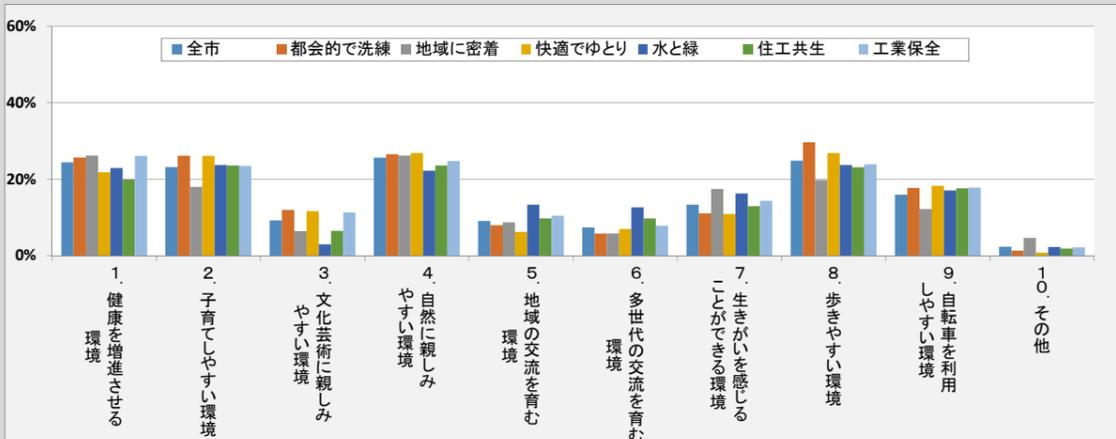
・ニーズの高い施設のうち、広域からの利用が見込まれる商業施設、総合病院、銀行・信用金庫を、都市機能誘導区域の各地区共通で誘導施設として設定している。

(○: 誘導タイプ、●: 維持タイプ)

北戸田駅周辺地区	戸田駅周辺地区	戸田公園駅周辺地区
○病院 ○銀行・信用金庫 ●商業施設	○病院 ○銀行・信用金庫 ●商業施設 ●市役所(本庁舎) ●文化会館 ●図書館(本館)・郷土博物館 ●スポーツセンター ●健康福祉の杜	○銀行・信用金庫 ●商業施設 ●病院

○住まいの周辺に必要な環境
(居住者意向調査、地域別)

・いずれの地域も共通して「自然に親しみやすい環境」「歩きやすい環境」「健康を増進させる環境」「子育てしやすい環境」「自転車を利用しやすい環境」に対するニーズが高く、市全体で必要とされている環境であると言える。



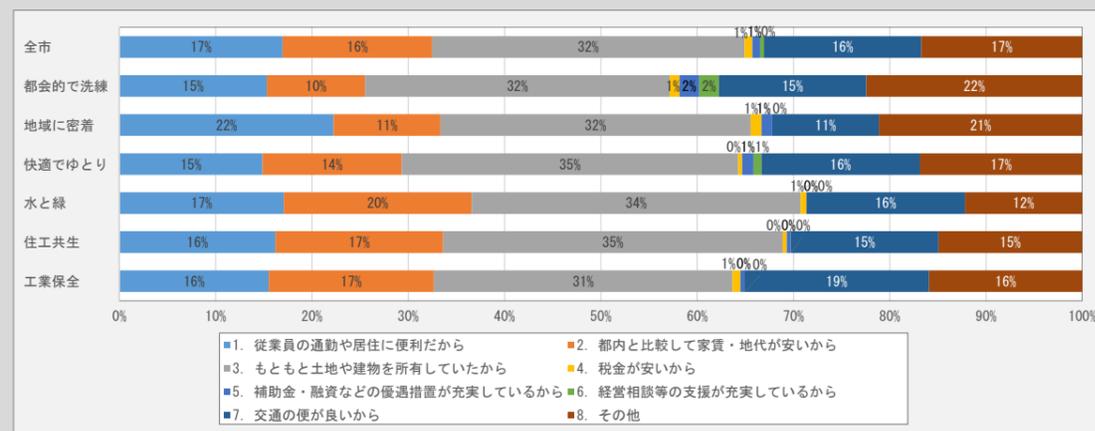
○誘導施策

・水と緑のネットワーク、歩行者・自転車ネットワーク整備の推進、子育て機能の充実などの取り組みを誘導施策として位置づけている。

- 誘導施策
- ・水と緑のネットワーク形成プロジェクトの推進
 - ・公園の整備・再整備の推進
 - ・歩行者・自転車ネットワーク整備の推進
 - ・健康維持・増進のための学び・実践の場の提供
 - ・保育所の拡充とより質の高い運営
 - ・幼稚園の一時預かりの拡充
 - ・二世帯、三世帯居住、近接居住への支援 等

○市内での操業理由
(事業者意向調査、地域別)

・「通勤や居住の利便性」、「交通の便」、「都内と比較して家賃・地代の安さ」が評価されており、事業所の立地場所としてのニーズは一定数あるものと考えられる。



○誘導施策

・現在の便利な場所で操業し続けられるよう、事業所立地に対する支援、工業の操業環境の改善を誘導施策として位置づけている。

- 誘導施策
- ・新技術・新製品の開発支援
 - ・工業施策と連携した住工共存地における、住宅と工場等の共存できる環境づくりの推進、土地利用の見直し方策の検討
 - ・工場等への公害苦情の未然防止を推進
 - ・企業立地マッチング促進事業の推進